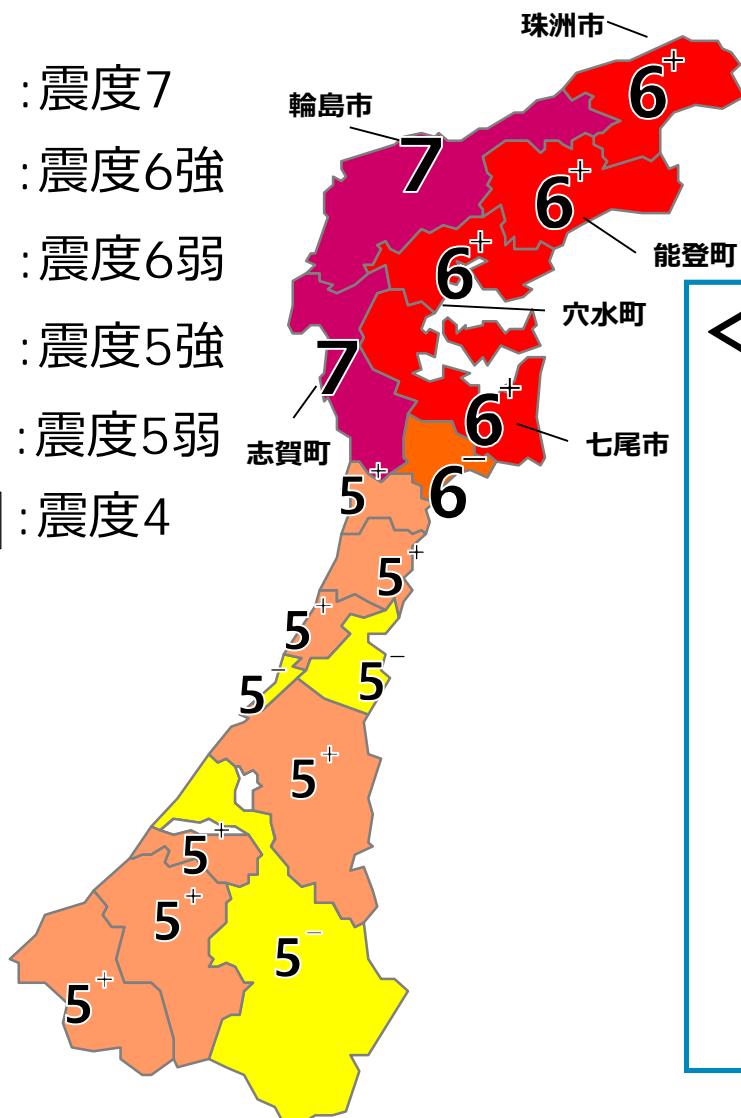


# 能登半島地震・奥能登豪雨からの 創造的復興

石川県知事 馳 浩

令和7年9月20日(土) 兵庫県「創造的復興サミット」

# 令和6年能登半島地震の状況



# 令和6年1月1日 午後4時10分 発生

## ＜人的・住家被害の状況＞ R7.9.3時点

**死者 643人**

直接死 228人

→圧死(約4割)、窒息・呼吸不全(約2割)、  
低体温症・凍死(約1割)など

## 災害関連死 415人

→環境変化による肉体的・精神的負担、既往症の悪化など

## 行方不明者 2人

負傷者 1,272人

**住家被害 116,372棟** (うち全壊 6,166棟)

# 令和6年能登半島地震による被害

のと里山海道 横田IC付近



鹿磯漁港 地盤隆起(輪島市)



輪島朝市(輪島市 河井町地内)

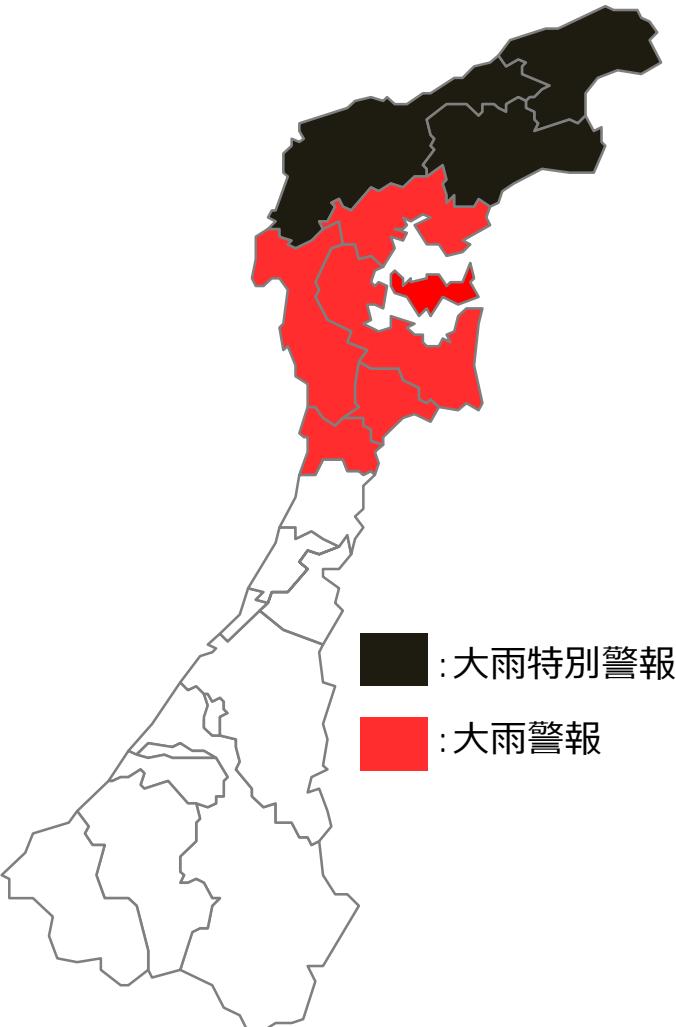


液状化(内灘町 西荒屋地内)





# 令和6年奥能登豪雨の状況



令和6年9月21日

- ・輪島・珠洲で観測史上最大の降雨
- ・県内初となる大雨特別警報の発表

＜人的・住家被害の状況＞ R7.8.21時点

<b>死者</b>	<b>19人</b>	(水害による溺死、土砂災害による圧死など)
<b>行方不明者</b>	<b>0人</b>	
<b>負傷者</b>	<b>47人</b>	(うち重傷 2人)
<b>住家被害</b>	<b>1,901棟</b>	(うち全壊 82棟)



# 令和6年奥能登豪雨による被害

輪島市(宅田第2仮設住宅周辺)



珠洲市大谷町



輪島市街地



輪島市町野町(田んぼへの土砂・流木堆積)





# 復旧・復興の進捗状況

応急的な住まい

恒久的な住まい

## 住まいの再建

### 応急仮設住宅



<みなし仮設>



<建設型>

必要戸数 7,168戸  
全戸完成済

### 入居者数

R7.8.1 時点  
**20,076 人**

公営住宅 802人  
みなし仮設 5,823人  
建設型 13,451人

### 自宅再建 (購入・修理)



### 民間賃貸住宅



### 復興公営住宅

## 道路の復旧

### 通行止め箇所 (県管理道路)

#### 【最大】

地震 42路線**87箇所**  
豪雨 25路線**48箇所**



#### 【現在】

7路線**13箇所**

※地すべりやトンネル崩落による大規模な被害が  
発生した4路線8箇所を除き、**年内の解消を目指す**

のと里山海道

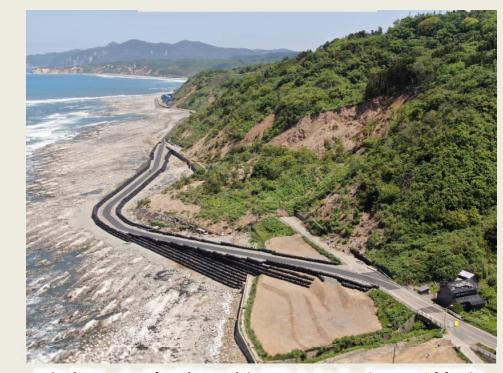


被災直後



現在

国道249号



隆起した海岸に整備された仮設道路



# 「石川県創造的復興プラン」の策定

- 令和6年6月、創造的復興の実現に向けた羅針盤として、「[石川県創造的復興プラン](#)」を策定  
(期間：R6～R14) ←石川県成長戦略の終期
- 短期(2年後)、中期(5年後)、長期(9年後)の3期間に分けて、着実に取り組む

## ＜創造的復興のスローガン＞



能登が示す、ふるさとの未来  
Noto, the future of country

創造的復興の象徴となる13の取組を  
「創造的復興リーディングプロジェクト」と位置づけ



# 創造的復興リーディングプロジェクト 13の取組



取組 1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

## 取組 2 能登サテライトキャンパス構想の推進

取組 3 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

取組 4 新たな視点に立ったインフラの強靭化

取組 5 自立・分散型エネルギーの活用など  
グリーンイノベーションの推進

取組 6 のと里山空港の拠点機能の強化

取組 7 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

取組 8 奥能登版デジタルライフラインの構築

## 取組 9 能登の「祭り」の再興

取組10 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

取組11 能登半島国定公園のリ・デザイン

## 取組12 トキが舞う能登の実現

## 取組13 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

### 【関係人口の拡大】



- ・地方部でゆっくり過ごす
  - ・定期的に能登復興の活動
- (週末)
- (平日)
- 都市部で仕事



(写真) 石川県観光連盟



(写真) 能登高校提供



(写真) 石川県観光連盟  
あばれ祭り(能登町)



隆起した漁港・海岸黒島漁港 (輪島市)



能登が本州最後の生息地であるトキ

## いしかわサテライトキャンパス

県内外の学生が地域との協働・交流を通じて課題解決等に取り組み、関係人口の創出を図る

R6年度

- 能登の被災地において、県内大学による復興活動への支援枠を拡大するとともに、災害ボランティア活動を中心に受け入れ  
**→ 県全体で約350名の学生の活動を受入**



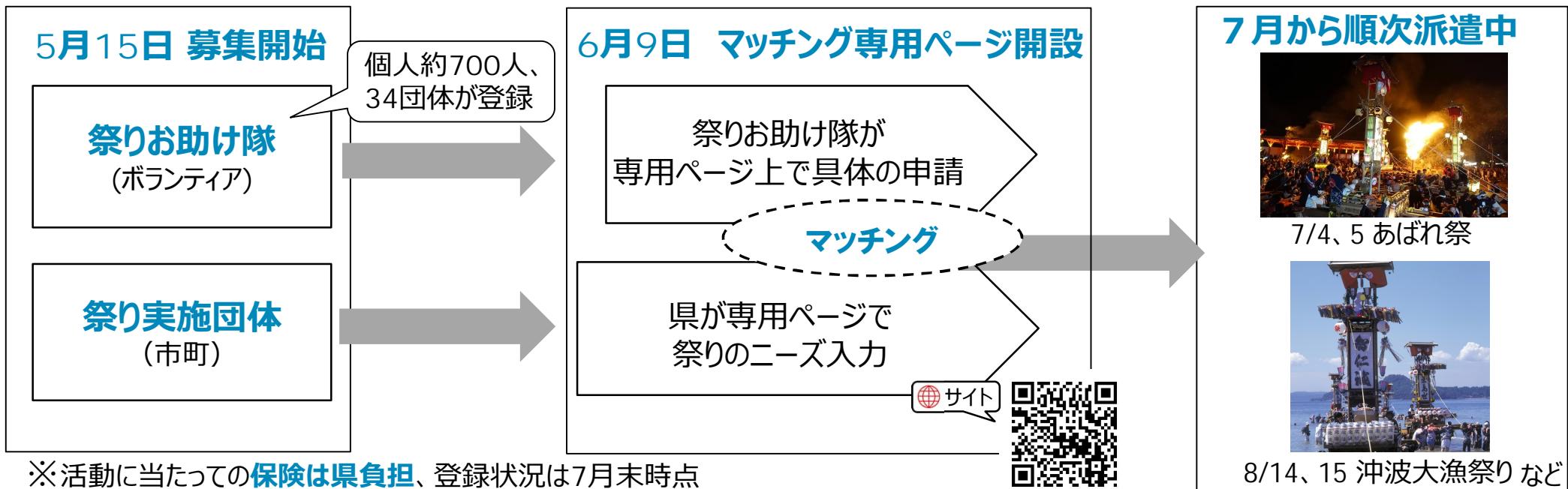
R7年度

- 地域課題研究ゼミナール支援事業  
➢ R6.6創設の「復興課題枠」の対象を拡大
- 「能登・祭りの環」支援事業  
➢ 地元からの強い再開要望を受け、R7年度から事業再開
- サテライトキャンパス推進事業  
➢ 県全域で県内外の大学ゼミ等による単位認定も見据えたフィールドワークを実施  
➢ 単位認定も見据え、実施可能な研究プログラムを大学に提案しPR

**→ 県内外の受入学生数の倍増（700名）を目指す  
(8月末時点で、59大学等から約720名参加見込)**

## 「祭りお助け隊」の派遣

- R6は、能登に暮らす人々の絆である**祭りの再開を支援し、地域コミュニティを再建するため**、祭り用具の修繕・新調や資機材借上などの**経費(最大150万円)を助成**し、あばれ祭や石崎奉燈祭など、**能登全体の4分の1の祭りが開催**
- 一方で、「再開したいが、担い手が確保できず断念した」との声もあったことから、今年度は、キリコの担ぎ手や祭りの運営を補助するボランティア**「祭りお助け隊」**を創設し、**15の祭りに県内外から300名を超える方が参加**



## トキ放鳥に向けた取り組みの推進

- 国が**令和8年6月頃**を目処に能登地域におけるトキ放鳥を決定
- 7月に放鳥地を**羽咋市南潟地区（邑知潟）**に決定

### 能登復興のシンボルとなるトキ放鳥に向けて万全を期す

#### 能登地域でのトキ放鳥に向けた準備

放鳥で使用するケージ設置に向けた検討など



放鳥ケージ

#### トキ定着に向けた体制づくり

トキのモニタリング体制の検討・構築、トキ観察マナーの普及啓発など



#### 放鳥を見据えた気運醸成の加速化

放鳥決定を記念したイベントなど



モニタリング

#### トキ放鳥を契機とした地域活性化

ロゴマーク・キャラクター、PR動画制作、米のブランド化に向けた検討など

## 能登駅伝の復活について

スポーツの力で前に進もうとする能登の皆様の背中を押すような、  
**全国から人が集うスポーツイベントを開催し、能登の創造的復興を目指す**

### 能登駅伝の復活

(S43年～52年に開催、高岡～珠洲～輪島～金沢の約350kmを2泊3日で走る)



能登の素晴らしさを国内外に発信し、  
県内外の学生に復興の過程を知ってもらい、  
学生と被災地の皆さんと交流する機会を創出し、  
**記録より記憶に残る大会** を目指す



- 昭和43年～52年に開催され、当時「箱根駅伝」や「伊勢駅伝」とともに、  
**学生三大駅伝**の一つとされた。
- 現在、数年後の開催に向けて、陸上競技関係者や地元自治体からなるワーキング  
グループを開催し、意見交換しながら、**基本計画案の策定**に着手